

特定非営利活動法人わっか
2018年度年次報告書

2017
2018

だれもがまるごと
受けとめられる
社会をつくる



NPO 法人わっかとは

だれもが、まるごと受けとめられる社会 を目指して

活動を行なっている団体です。

子どもを取り巻く環境

子どもたちは「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により

「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、さらには、地域社会においても、その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り、仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

私たちは、まるごと受けとめられる場づくりをしたいという思いで

居場所づくり事業 や 出会いと学びを育む事業 などを行っています。



わっかの目指す姿

だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して、居場所づくり活動を中心として活動しています。

日々、わっかに集まる人と過ごす日常を何よりも大事にしています。

そんな中で、様々な声を聞くことがあります。それは、その人の生きづらさの吐露であり、僕たちはそれに寄り添いたいと考えています。

わっかの企画はすべて、そんな小さな弱い、でも確かな声をきっかけに立ち上げてきたものばかりです。

今 出会うあなたへ 私たちができることをやり続ける それが“わっか”

のっばらわっか (p.5)



Waccafe (p.5)



寺子屋わっか (p.5)



月ようわっか・日ようわっか (p.4)



学び合いの会(p.7)



さかっこクラブ(p.8)

居場所づくり 事業

何気ない日常を重ねることを大切に

1人1人に寄り添える場づくり

2018年度、あらたに「寺子屋わっか」をはじめました。
月ようわっかに来ている子たちの「静かな環境で勉強したい」
という思いからはじめました。

月ようわっか

月曜日（毎週）15:30～20:00 頃

52回で1366人（のべ）



ぼくらは

今

種まきをしている

今を生きる子ども達に

いずれ来るかもしれない

嵐に備えて

出会いつながり

何気ない日常の一コマに

たしかに存在したあの人たち

今日もぼくらは

出会い 思い つながり

種をまきつづける

月ようわっか「月-moon-Wa っか」より

僕達の思いはこれに尽きます。人の人生、何が起ころかわかりません。何かあった時にふと思い出される場所にしたい。「あそこに行けば、なんとかかなるかもしれない」と思われる場にしたいと思い、この活動を続けています。

子ども達は、いつものようにやってきて「よっ」と一言。みんな、自分のタイミングで思い思いにやってきます。ひとまず、わっかをぐるっと見て回る子、すぐ本を読みだす子、友達が来てなくてそわそわする子、綿菓子機械を持ってきて作り出す子、みんな自分の思うままに過ごしています。最近は、カフェが近くにできたので、待ち合わせして、だべりに行く高学年女子もいます。

リアカーで町中を練り歩く子たち、ひたすらしゃべり続ける小6の子たち、壁に釘やら板やら打ちつける子たち、本格ままごとを部屋いっぱいにする子たち、たまに来て駄菓子をせがんで、しゃべって帰る中学生たち、いろんな子たちが一緒にこの場を過ごします。

学校、家庭、地域、社会の中で懸命に生きる子ども達が見せる素顔。やっている事、言っている事はめちゃくちゃかもしれない。だからこそ、あなたはあなたただよって感じる事ができる場があるって、すごく大事なことだと思います。そういう場がわっかなんです。これからも、そういう場づくりを続けていきます。

日ようわっか

日曜日（月1～2回） 10:00～15:00頃

20回で264人（のべ）



「今日も本当子どもたちが楽しそうで、私も息抜きできて、わっかに来て良かったです。また来月来ます。」これは、日ようわっかに、いつも来てくれる方が、あるとき LINE グループに流して下さった言葉です。

普段一緒にわっかで過ごしている時に、「ここで息抜きできるね」とか「子どもたちが楽しそうだね」と言うことはありません。それは、わっかにいることが日常の1コマのようになっていて、そこでどんな風を感じているかを、わざわざ口にする必要がないからかなと思っています。

わっかでみんなですぐに過ごせることでこんな風を感じてもらえていたら嬉しいです。みんなで一緒に羽を伸ばして過ごせる場所になりつつあるのかもしれない。

のっばらわっか

日曜日（月1回）10:00～夕方頃

14回で86人（のべ）



野天の下、広い野原で好きずきに過ごす。雨に見舞われた時にはずぶぬれになりながら遊び、強風の時はパラソルを広げて自分も浮いてみたり。山に登りだす子、火を起こしに夢中の子、本を読んでも動かない子、ごっこ遊びをはじめの子、自分がやってみよう！にチャレンジできる、そんな場です。

wacafe 月曜日 10:00～14:00

40回で77人(のべ)



珈琲の落ちる時間を楽しんでいる自分に、ふと気付き、ゆっくりと呼吸しはじめる・・・来る人がそんな時間や空間になればという思いを込めたwacafe。

散歩の途中で…ゆっくり本が読みたくて…学校に足が向かなくて…怪我して仕事に行けなくて家にも居づらくて…色々な方々が顔をのぞかせてくれています。

寺子屋わっか 水曜日 18:30～20:00

69回で158人(のべ)と過ごしました。



「テレビの音も周りもうるさすぎる！」「宿題する場所がほしい！」大人数兄弟の子が声を上げた事からはじまった寺子屋わっか。学習の遅れが見られ、宿題に向き合うだけで時間がかかっていたのも、今では1人で取り組めるようになっています。そして宿題をするだけでなく、学校の事、家の事、自分の事、「ねえ、聞いて・・・」と何気なく話しができる場にもなっています。

平日わっか 火・金曜日 10:00～13:00頃

85回で132人(のべ)と過ごしました。



「いつもはお屋1人で寂しく食べるけど、ここなら、みんな居て楽しいわ。」と来てくれる近所のおばあちゃんは言ってくれます。また、そこに子ども連れの人があると「こんな、若い人たちと一緒に食べられて嬉しいわあ」と言ってくれる。日頃は一人でお昼ご飯を食べることの多い方が、ここに来ることで、おしゃべりをしながらご飯を食べています。

寺子屋わっか 水曜日 18:30～20:00

69回で158人(のべ)と過ごしました。



「テレビの音も周りもうるさすぎる！」「宿題する場所がほしい！」大人数兄弟の子が声を上げた事からはじまった寺子屋わっか。学習の遅れが見られ、宿題に向き合うだけで時間がかかっていたのも、今では1人で取り組めるようになっています。そして宿題をするだけでなく、学校の事、家の事、自分の事、「ねえ、聞いて・・・」と何気なく話し

出会いと学び を育む事業

昨年度に引き続き、居場所づくりサミットを開催しました。

居場所づくりサミットを通じて「居場所づくり」についてみんなで考えました。また、鈴木先生や西内先生の講演は市内の方を中心に参実施しました。

● 居場所づくりサミット（1月）

幸重忠孝さん、宮田隼さんを招いていま、子供を取り巻く環境はどうなっていて「居場所づくり」がどのような役割を果たし果たす可能性があるのか考えました。

講演会 **32**名 交流会 **18**名の参加



▲講演会のパネルディスカッションの様子。



▲講演会後に行われた交流会の様子。

● 鈴木秀一さん（6月、11月）

滋賀県スクールソーシャルワーカーとして、日々、子どもについて保護者や教職者の相談にのり、指導をされている鈴木先生をお招きし、第一回「成長の心理学」、第二回「子どもを支援する立場」という題目で講演会を行いました。わっかに来ている子どもの保護者さんや、放課後児童クラブの支援員、鈴木先生のファンの方などなど多数の方の参加がありました。

● 西内としおさん（3月）



「ひらけポンキッキ」「みんなのうた」「おかあさんといっしょ」などのアニメーションを中心に活動を始め、現在も、アニメーションとイラストレーションの両分野で活動中の西内としお先生をお招きし、長年に渡り、幼児向けの絵本や保育用品のイラストを手がけられてきた経験をふまえ「イラストを通した子どもとのコミュニケーション」についてお話しをしていただきました。子どもさんの参加もあったので、みんなでお絵描き会もしました。

委託事業
さかっこクラブ
放課後児童クラブ

2018年4月より米原市放課後児童クラブを
受託しています。

もっともっと多くの子ども達とつながりたい、
その子たちを見守り続けたいと思い、
学童保育の委託運営を始めました。

今年度、米原市の JR 坂田駅近くの坂田小学校に新設された放課後児童クラブ(=学童保育)です。通称「さかっこクラブ」。坂田の子で「さかっこ」です。

奇しくも、1年ほど前から個別に関わっていた、ある生きづらさを抱えた子が、坂田小学校に転校してくることになり、その子の居場所として大きな役割を果たすこととなりました。

人数は13名の小さな学童(一般的に通称でこのように呼ばれる)です。この子達と、いかに学童をわかのような「居場所」にしていくか模索し続けた1年です。幸い、子ども達からも「学童行きたくない」の声もなく、むしろ「楽しい」と子どもが言っていると保護者からお聞きしており、それに対して、一定の評価をいただいています。前向きなご意見やご寄付をわかにかにしてくださいる方もいらっしゃるほどです。これからも、学童がいかにしたら「居場所」になるか考え続けます。



個別の関わり

私たちはわかで出会った若者と
つながり続けています。

「同じ釜の飯を食う」～3人の若者と重ねる日常の中から～

わかには、少なからず生きづらさを抱えた若者がやってきます。

それぞれの境遇は様々です。そういうときに、ほとんどの人が「どんな境遇なんだろう?」「どんなに大変だったのだろう?」と聞きたがります。それを聞いて「なんてかわいそうなんだ」「大変だったね」と言います。でも、それって必要なことでしょうか?

僕たちは2年前、ある一人暮らしの高校生の女の子に出会いました。彼女は、誰が聞いても「壮絶だ」と思う過去の持ち主でした。出会った当時「誰からもどんな過去だったのかと聞かれるから、自分から言うようにしてるし、聞かれたら全部答える」と言っていたのが彼女でした。僕たちは、そんな彼女の言葉に疑問を感じ、あえて何も聞かず、ただ一緒にご飯を食べ続けることにしました。毎週毎週、心を込めてご飯を作って、彼女と他愛もない会話をしながら、ご飯を一緒に食べました。

そうしていくと、少しずつ彼女は、普段、生きづらさの中で抱えている本当の思いを自分から話してくれるようになり、僕たちは少しずつ彼女の思いに寄り添っていきました。彼女が行きたいところに連れていったり、ときには、病院に連れていったり、様々な手続きの書類作成のサポートしたり、体調が悪いときは精が出る物を家に届けたり、ご飯を食べる以外の時間も共に過ごしてきました。

そんな彼女は今、紆余曲折を経て、高校を無事卒業し、ゆっくりとですが、一人の大人として歩き出しています。

必要なことはその子の境遇を知る事ではありません。極端に言えば、過去はどうでもいいのです。大切なのは、その子の“今”です。今を共にどう過ごすか、それしかないと思います。

僕たちはそんな思いで、今も彼女を含む3人の若者と「同じ釜の飯を食う」ことを続けています

その他

ゆっくりマルシェへの参加は3年目になります。

トイレの改修を4団体からの助成金により実施。

●ゆっくりマルシェ 3回

米原市内で2ヶ月に1回おこなわれる、ゆっくりマルシェのすみっこで「遊び場」を開いています。マルシェにくる子どもたちと大人が思い思いに過ごしています。以前にわかに来てくれていた人との再会があったり、わかを知らなかった人に、わかか活動を知っていただく機会にもなっています。



●トイレの改修工事

改修前は汲み取り式の和式トイレだったものが洋式の水洗トイレになりました。汲み取り式のトイレや和式トイレを使ったことのない子どもがいたり、高齢者の方で膝が痛くて和式トイレが使用できずに、トイレを我慢する方もいました。そんな来てくれる方の不便を改修によって減らすことができました。



改修工事は下記団体のご協力で実施する事ができました。

- ・ 全国食支援活動協力会
 - ・ こくみん共済
 - ・ 愛恵福祉支援財団
 - ・ 米原市社会福祉協議会
- ありがとうございました。

視察 見学 話題提供

今年度も3団体がわっかの視察・見学にお越しくださりました。

滋賀県で、主に子どもの「居場所づくり」をしている団体として認知されてきています。わっかの「居場所づくり」が他地域での活動にお役に立てることが嬉しいです。

●NPO 法人

山口せわやきネットワーク
こども明日花プロジェクト



山口県で「居場所づくり」「学習支援」「こども食堂」の活動をされている団体です。「見守る姿勢」についての意見交換や、今後を見据えた課題についての談義をしたりと、活動を行う仲間として有意義な時間となりました。

●静岡県立大学 津富ゼミ

「ただ、こどもも大人もそこにいて、いいという「居場所」に焦点を当てた場所、これは今までどこにもないもので、大人と子どもがのびのびと過ごせる場、地域と子ども、大人が過ごす拠点に見えて、とても素敵でした。」

(参加者の感想から)

●NPO 法人いきいきおうみ



市内で活動される団体で7名の参加を頂きました。わっかの子ども達の遊び方に仰天されましたが、沢山の疑問を投げかけてきて下さったので、活動の趣旨をしっかりと伝える事ができました。

●米原まちづくり会議 Vol.9

「もし米原駅東口に

自由に使える公園があったら何する？」
【テーマ】

「私は公園でこんなことをやりたい！」
好きなことを好きなだけできる遊び場で話題提供をしました。わっかでふだん子どもたちが過ごす様子の写真を交えながらご覧いただきました。

支えてくださった企業・団体の皆様



京都宇治 伊藤久右衛門

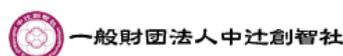
社会福祉法人
滋賀県社会福祉協議会

JA
(滋賀県社会福祉協議会を通じて)



たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済
全国労働者共済生活協同組合連合会 COOP

タノシニア
合同会社



平和堂
(滋賀県社会福祉協議会を通じて)



米原市



社会福祉法人 米原市社会福祉協議会



正会員・賛助会員個人さま 正会員 **14** 名、賛助会員 **5** 名

● マンスリーサポーター・単発寄付をいただいた方

2017年度はマンスリーサポーター（定額ご寄付）3名、単発ご寄付6名となりました。
ご寄付とともに「活動をこれからも続けていってください」と温かい言葉をいただいています。

● 物品でのご寄付

物品での寄付によって、わっかの活動が充実しています。お米や野菜などは子ども食堂の材料として、おもちゃや、古本などは、わっかで過ごす時間が充実したものになります。昨年度いただいたものの一部をご紹介します。



みかん、さつまいも、子供服、蚊取り線香、お茶、味噌、塩、しょうゆ、みりん、料理酒、薄力粉、強力粉、ツナ缶、ドライイースト、カレールー、アルミホイル、サランラップ、クッキングシート、コーヒー、ピーマン、なす、ししとう、郵便封筒、インクジェット、お米、もちごめ、整理棚、電子ピアノ、廃材、ジュース、チューペット、スイカ、Amazon ギフトカード
みなさまのお気持ちありがとうございます。

巻頭特集

みんながほっと
できる場所 わっか

子どもの自由な心と 自主性を育む

子どもたちが

自由に遊べる場所をつくらうと、

米原市内の古民家を改装した「わっか」。

親子で食事をつくって、

みんなでわいわい食べる子ども食堂や、

週に一度のwaccaféなど、

さまざまな活動を通して地域の子どもが

ほっとできる居場所づくりを目指しています。



昨年5月、わっかの隣に完成した「みんなのわっか」オープンイベントの様子。親子で食事や活動、地域の人々も参加者と一緒に手づくりしました。

子どもも大人もほっとする 居場所づくりを目指す

子どもたちが自由に走りまわると、無邪気な笑い声に包まれた「わっか」は、地域の親子が自由な時間を楽しめる場所です。運営を担っているのは、障がいがある子どもを支援するNPO法

人びと活動していた橋角大祐さん、10年前から親子ともに関わる活動をしている柳生のびきさん、食育や養生に造詣の深い青木明貴さんの3人。活動のきっかけは、平成29年に米原市内で開催された講演会です。講演会で子どもたちの居場所づくり活動をするNPO法人ゆめまはち、わっかの人の話を聞いて、感

銘を受けたといいます。「地元の子もみんなに居場所づくりをしたい」と、平成29年に米原市宇賀野で休耕田を活用した「冒険遊び場」を企画。翌年、活動の拠点となる「わっか」をオープンします。以前は金銭的だった。2000年の古民家を閉鎖しました。大家さんも地元を元気にする活動をしていなくて、市の担当



NPO法人「わっか」代表 橋角大祐さん
地域の子どもたちが自由に走りまわると、無邪気な笑い声に包まれた「わっか」は、地域の親子が自由な時間を楽しめる場所です。運営を担っているのは、障がいがある子どもを支援するNPO法人ゆめまはち、わっかの人の話を聞いて、感

者を通して伝えたが、橋角さんは笑顔で話します。その後「わっか」から約500mの所に「冒険遊び場」を移転。月曜に子ども食堂を開始しました。

昨年5月は、わっかの隣空き地に「みんなのわっか」が完成

子どもたちや保護者が参加したら、10年前から親子ともに関わる活動をしている柳生のびきさん、食育や養生に造詣の深い青木明貴さんの3人。活動のきっかけは、平成29年に米原市内で開催された講演会です。講演会で子どもたちの居場所づくり活動を

参加型のイベント実施で 地域の交流を回す

「わっか」の活動日は、土日は不要開催で10時から夕方にかけて、毎週月曜は夕方から夜にかけて、月に8回ほど活動しています。

申し込み不要、参加費無料、誰でも好きな時間に自由に出入りできます。

広々とした案内は、フラフラや幼児用の乗り物ブロック、ボードゲームなど、地域の子どもたちが持ってきたおもちゃや読書、絵本や児童文学、漫画がそろった図書も文庫もあります。子供や学生も来ますが、思い思いの時間を過ご

土日の昼と月曜の夜には、子ども食堂を開催。米を持ってきてくれる地域の農家、野菜を育てる保護者、県の社会福祉協議会など、

たくさんの方が食料の寄付を受けています。月曜は食料が中心となって和食を提供。土日は自由参加で、子どもたちが自分で準備を切り取り、肉をゆめたりして、大人と一緒に料理をつります。

また、月曜のコースで、火起こしや大玉遊びできる「冒険遊び場」のつぼわっかを実施。子ども服をリサイクルする毎月1回の「おそろい出せ」や、居場所の大切さや子育てに関する学びを深める年数回の「まなびの会」も開催しています。

自由な発想を尊重し 子どもの成長を見守る

活動の中からも大切にしているのは、子どもたちの自由な発想と行動の尊重です。大人は子どもを心配するあまり、「危ない」と声をかけたり、自分のやり方を教えてしまったりと、子どもの行動を制限しがちです。重要なのは、子どもの感情を尊重し、必要

必要。大人は自分居場所をつくりますが、子どもにはそうもいきません。今後は活動日を少しずつ増やして、共に不登校など、精神的につらい思いをして

い子どもや保護者に寄り添っていきたいと思います」と橋角さんは動かしません。子どもたちが自由にのびのびとした時間を過ごせる「わっか」活動を開始してまだ数年ですが、これらさまざまな取り組みを展開し、子どもたちの居場所づくりを続けていきます。



築2000年の古民家を改装した「みんなのわっか」が完成。近隣の人も好評だそうです。

Information
みんながほっとできる場所 わっか
〒517-0831 米原市宇賀野551 電話:070-1803-059
ウェブサイト:https://bouken-asobiba.jp/mo/

活動日時
わっか:土曜・日曜(10時~14時) ※不定期開催
月曜(夜):参加費は子ども無料、大人300円
子ども食堂:土曜・日曜(昼)
waccafé:月曜(10時~14時 ※不定期開催)

※詳細は、日曜や月曜の活動について、ブログやLINEで確認してください。



●みんなが一緒に食事をする子ども食堂。子どもたちも笑顔で、手づくりのパンを焼いてもらいます。●子どもたちの居場所。大人が子どもを心配するあまり、自分のやり方を教えてしまったりと、子どもの行動を制限しがちです。重要なのは、子どもの感情を尊重し、必要

子どもの 居場所づくりを 一緒にする方法



大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、さらには、地域社会においても、その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっている。

そんな環境に現代の子どもはいます。

わっかは、いつも同じ人が開けている。
そこでは自由に過ごせ、なぜかほっとできる。
そんな場所があることで日々の生活を送ることができる子どもたちがいます。

子どもたちの日常を支えてください。
サポーター会員は月々のご寄付金額はご自由です。
法人会員も募集しています。

サポーターの皆さまには活動中に見られた
こどもの様子や笑顔を毎月報告書でお送りします。
そのほかにも、様々なイベントを今年度から開催します。

ぜひ応援してください！

(2017年12月27日から2019年3月31日まで)

NPO法人 わっか

2018年3月 月次報告



毎月、
月次報告書をお送りします！

寄付会員のお申し込みはコチラから！

電話

070-1803-1059 (代表)

WEB

わっか で検索

マンスリーサポーター制度

QRコードから⇒





特定非営利活動法人わっか

住所 〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5

TEL 070-1803-1059

MAIL wacca235@gmail.com

WEB <http://bouken-asobiba.jimdo.com>